

二〇二二年度

尚綱学院高等学校

入学試験問題

国語

試験時間（五〇分）

注意事項

- 一. 「始め」の合図があるまで問題の表紙を開かないでください。
- 二. 解答用紙には決められた欄に受験番号のみ記入し、氏名は書かないでください。
- 三. 解答は必ず解答用紙のそれぞれ決められた欄に記入してください。
- 四. 印刷が見えにくい場合は、手をあげて監督者の指示に従ってください。
- 五. 考査が終わったたら、解答用紙と問題用紙を別々にしておいてください。
- 六. その他すべて、監督者の指示に従ってください。

受験番号

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

二十歳の「私」は、ただ一人の身寄りである奈々美おばさんが亡くなったあと、ある町に引っ越してきた。新生活にあたり、その町の「サイクル紺野」という店で、「私」は自転車を買った。

そうして首尾よく手に入れたママチャリは、実際、新しい生活になくはならないパートナーとなった。ひとり暮らしに必要な買い物にも、不慣れな町の散策にも、私はせっせとペダルをこいでくりだした。隣町ではじめてアルバイトにも自転車を通った。駅前商店街の銀行にも、図書館にも、公共料金の支払いにも。あまりにいつも一緒だから、危うく自転車に名前をつけそうになってしまったほどだ。

そんな自転車ライフに影が差したのは、引っ越しから約三ヶ月目。走行中にブレーキをかけるたび、ギギギギギ、と断末魔の叫びさながらの噪音が耳をつんざくようになった。紺野さんのところで研磨材をつけてもらおうといったんは収まるものの、また三日もするとギギ、ギギ、と神経に障る音ももれてくる。

これには私よりも先に紺野さんのほうが音をあげた。
「たった三ヶ月でこんなになるってのは、もともと個体自体に欠陥があったんだろうな。まずいのを勧めてすみませんでした。どれでも好きなのと交換しますから」

紺野さん、あきらめ早すぎるよね。

あきらめがつかないのは私のほうだった。だってあの自転車は私の唯一の相棒だったし、少なくとも名前をつけてしまいうるくらい愛着はあったんだから。それに、あんまりセンチメンタルなことは言いたくないけど、もしかしら当時の私にとってあのママチャリは奈々美おばさんの X みたいな存在だったのかもしれない。

「新しい自転車はけっこうです」

私は紺野さんの申し出を辞退した。

「それより、できればこれからも三日おきに研磨材をお願いできるとありがたいんですけど」
*2 酔狂な娘だ、って紺野さん、きつと思ったはず。マジかよ、って顔に書いてあったもの。

けど、口には出さずにこっくりとうなずいてくれた。

「もちろん、あなたの気がすむまでおつきあいしますよ」

以降、私は三日おきにサイクル紺野を訪ねることになったってわけだ。

欠陥品を勧めた Y からか、紺野さんは私のママチャリに関しては何優先で

対処をしてくれた。

「いつもご苦労さんだねえ」

「いえいえ、こちらこそすみません」

他人行儀な会話と、作り笑い。長いことそれだけの間柄が続いた。最初の日に抱いたあの懐かしさは少しも薄まらず、私はサイクル紺野に足を踏みいれるたびに泣きたい気分になつていたのに、そんなことはおくびにも出さずに表面だけで笑ってた。無口な人間同士が仲良くなるのって、楽じゃない。

結局、橋渡しをしてくれたのはこよみだったんだよね。

三日おきの訪問を続けて数ヶ月が経ったある日、それまで私のことなんてまるっきり無視してたこよみがするすると寄ってきて、ブルーグレイの毛を私のふくらはぎにすりつけた。

「へえ、めずらしいこともあるもんだ。こよみがお客さんにそんなことをしたの、はじめてだよ」

って紺野さん、ちょっとぼかんとしたけど、私は指一本も差しださずただただ不慣れな生き物をながめていた。まあかわいい、とか、こういうときに言えない。そもそもかわいとも思わない。ただの獣だ。

そんな感想しか持ちえなかった私に、それ以後も毎回、こよみは体をすりつけてくるようになった。

ある日、ふつとその背中に手をのばした。ほんの気まぐれ。ほんやりと、なんとなく。

そしたら、その手を、離せなくなった。

あんまり柔らかくて、あんまり温かくて、こんなものに触れてしまったらもう離せないと思った。

以降、私はアプローチの加減がわからない思春期の男子なみにこよみを追いまわし、腕や頬に無数の引っかき傷を作りながら猫とのつきあいを学んでいった。

すっかりこよみと仲良くなったところには、紺野さんがママチャリのメンテナンスを終えても、すぐには帰らなくなっていた。もともとサイクル紺野は私にとってこの世のものとは思えないくらい居心地のいい場所だったわけだし、急いで帰らなきゃならない理由もないし。

なりゆき上、紺野さんともぼつぼつと言葉を交わすようになった。はじめはほんの二言、三言。次第に一行、二行のセンテンスへと発展し、その内容も季節の挨拶から世間話へ、そして私的な対話へと濃度を深めていった。

ある日、例によって乱雑なサイクル紺野の店内に忽然と、一脚の椅子が出現した。*4 ヴィ

クトリア調っていいのか。古くて傷だらけながらも本来の木質は悪くなさそうで、ところどころに凝った細工が施されている大ぶりの椅子。遠い昔の英国屋敷を思わせるそれは、私のために紺野さんが用意してくれたものだった。

「リサイクルショップで買ったんだ。いつまでも立ち話っていうのもなんだからね」
照れくさそうに紺野さんが言ったその瞬間、私たちは店主と顧客って関係から、本腰を入れた話し友達に昇格したんだと思う（結局、その椅子はこよみにとられてしまったけど）。

初対面の日から話し友達になるまでに、約半年。そしてその後、私たちが特殊な同僚意識を持ちあうまでには、またさらなる一年を要した。映画や読書、一人前の料理術（いかに経済的に作るか）などをとりとめもなく語りながらも、私たちは互いの肝心なところを見せあおうとはしなかったから。

（森絵都「ラン」による）

【注】

- * 1 ママチャリ：買い物などの日常生活に用いる自転車。
- * 2 酔狂：好奇心からかわった物事を好むこと。ものずき。
- * 3 最初の日に抱いたあの懐かしさ：サイクル紺野に初めて訪れて、初対面の紺野さんと目を合わせたとき、「私」はなぜか強烈な懐かしさを覚えていた。
- * 4 ヴィクトリア調：十九世紀のイギリスで発達した室内家具などの装飾様式。

問一 空欄 X、 Y に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを、次の

選択肢から選び記号で答えなさい。

- ア X 生まれ変わり Y めぐりあわせ
- イ X 贈り物 Y 自己嫌悪
- ウ X 形見 Y 負い目
- エ X 穴埋め Y うしろめたさ

問二 「紺野さんのほうが音をあげた」とあるが、それはなぜか、最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

- ア 自転車の不調になったことは製品の不備なので修理できるものの、断末魔さながらの音があまりにも不快だったから。
- イ もともと自転車自体に欠陥があったということはわかったが、自分には自転車を適切に修理する技術が乏しかったから。
- ウ 自転車の不調があまりにも度を越えており、そもそも製品に不備があってもはや手の尽くしようがないと考えたから。
- エ 名前をつけるほど自転車に親しみをもつ「私」に対して、自転車の個体自体に欠陥があると伝えるのは心苦しいから。

問三 「 B どれでも好きなのと交換しますから」とあるが、この申し出に対して「私」はどうしたか。最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

- ア 紺野さんのあきらめが早すぎることに失望し、唯一の相棒である自転車に研磨材をつけてもらうことを辞退した。
- イ 自転車を手放したくないという思いを断ち切れず、これまで以上に効果のある研磨材をつけてもらうことにした。
- ウ 自転車に対して愛着を感じていたため、紺野さんの申し出を断り、定期的に研磨材をつけてもらうことにした。
- エ 紺野さんのあきらめの早さにはあきれたが、新しく選んだ自転車には研磨材をきちんとつけてもらうよう頼んだ。

問四 「 C 橋渡しをしてくれたのはこよみだった」とあるが、どういうことか、最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

- ア 紺野さんと仲良くなりたいのに他人行儀になってしまう「私」の気持ちを察して、こよみが積極的に行動したということ。
- イ こよみの行動の一つ一つが、「私」と紺野さん二人に対するこよみの深い思いやりをありありと感じさせたということ。
- ウ こよみが紺野さんから離れて「私」に近づくことで、「私」が紺野さんと親しくなるための犠牲になってくれたということ。
- エ こよみのふるまいが、うまく打ち解けられないでいた「私」と紺野さんをつなぐきっかけになったということ。

問五

「一脚の椅子が出現した」ことは、「私」にとってどのようなことのきつかけに
なったか。「紺野さん」「形式的」という言葉を使い、「……こと。」の形で、五十字以
内で書きなさい。

問六

この文章から読み取れる紺野さんの人物像として最も適当なものを、次の選択肢
から選び記号で答えなさい。

ア 「私」に対して好意をもちつつも、心に複雑な悩みを抱えているためについ無口になっ
てしまう人物。

イ サイクル紺野の仕事を通して表面的に「私」に向き合っているが、本来は他人に
まったく関心がない人物。

ウ サイクル紺野での自分の仕事を誠実にこなしており、「私」に対して思いやりを
もって接している人物。

エ 「私」に対する言葉の内容にいくつか矛盾することがあり、「私」から見ても多くの
なぞを秘めている人物。

問七

この文章の表現の特徴として適当でないものを、次の選択肢から一つ選び記号で
答えなさい。

ア いくつかの数詞を用いることで、登場人物の二人の関係の深まっていく過程が効
果的に表現されている。

イ 季節がわかる情景描写を差し挟むことで、登場人物の関係の移り変わりがいきい
きと表現されている。

ウ 会話文の他に主人公の心の中の言葉を交え、展開に伴う心情の動きがわかるよう
に表現されている。

エ ものを生き物であるかのように描写することで、登場人物の抱く愛着が的確に表
現されている。

〈問題は次ページへつづく〉

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

哲学は、実は具体的な学問です。こういうと驚く人は多いのですが、例えば、数学、あるいは算数は抽象的な学問です。雀が電線に五羽止まっている。そのうちの二羽の雀を鉄砲で撃ち落としたり、はたして後に何羽の雀が残るか。

算数とか数学だと答えは四羽です。でも、本当は四羽ではないですね。鉄砲の音に驚いて、後には雀は一羽も残らないからです。X ゼロ、これが正解。雀が鉄砲の音に驚いて飛び去ってしまうという条件も加味して考えていくのが哲学です。I に考

このように考えれば、数学や算数が抽象的な学問であるというのはいくらかわかるのですが、Y、政治学、あるいは経済学はどうでしょう。こういう学問も抽象的な学問であることを知っていないといけません。

経済学も政治学も抽象的な学問なので、現実のあらゆる条件を加味しているわけではないのです。ですから、何かの政策や実際問題の処理、今起こっていることがどういふことなのかを考える時に、経済学も政治学もあまり役に立たないということがあります。生活者としての実感があれば、例えば消費税が引き上げられたことを数字だけで分析してもあまり役に立たないのです。

反対にいうと、哲学はそういうことも知った上で、つまりあらゆる条件、状況を加味して、生活者としていわずに地に足をつけて物事を考えたいということです。

災害や事故があった時に、犠牲者を数字としてしか考えない人がいます。想定していたよりも死者の数が少なかったのでまずまずだったというような政治家が出てくる。しかし、家族を亡くした人にとって、その死はその後の家族のあり方を変えます。一人しか亡くならなかったから大きな災害や事故ではなかったとはいえないはずですよ。

とはいえ、もちろん、学問は多かれ少なかれ抽象的にならざるをえません。あらゆることを個別的に考えようとすると学問になりません。

学問だけではありません。ある人には当てはまっても、自分には当てはまらないことがあります。例えば、親が子どもを叱ってはいけないとか、ほめてはいけないということは経験則でしか学ばなければ応用が利きません。子どもは皆違うからです。さらに、子どもは成長していくので、同じ子どもも同じままではありませぬ。子どもによって、また、成長につれて親は違う対応をしなければいけないので、経験則からしか学んでいけると、どう対応していいかわからなくなります。だから、個別に、具体的にも見ていかなければいけないのですが、それでも、同時に一般的な原則もきちんと理解しなければなら

せん。(中略)

古代ギリシアの哲学者たちにとって、自然は物質ではなく、魂でした。自然を生命のない物質だというふうには考えないのです。そのような感覚は当たり前だと私は思うのですが、今や失われつつあるように思います。

井戸水というのは、年中同じ温度です。一年を通じて、十八度くらいです。でも、冬は温かく感じられる。反対に、夏は冷たく感じられるでしょう。

でも、今の自然科学ではそういう感覚は本当ではないとされる。一年を通じて十八度というのが事実で、冷たく感じられるとか温かく感じられるというのは、人間が主観で作りに出していると考えられるのです。

自然科学は、世界の究極の基礎として「もの」を考えます。このような考え方はギリシアにもありました。デモクリトスという哲学者がいました。彼は甘いか辛いとか熱いか冷たいとか、こういったものは本当のものではないといっています。それは自分が作り出しているのだと。あるいは、ノモス、約束事だといっています。

何かを食べた時に辛く感じるかそうでないかというのは、本人のII な感覚ではない。このような世界観においては、感覚だけでなく、生命、心、目的、あるいは価値といったものも主観的に作り出されたものでしかない。しかし、世界の究極のあり方の中に、生命も心も目的も価値もあると考えた人たちはギリシア以来います。D 価値などがこの世界から排除されてしまうとどんな問題が起こるか、考えてみなければなりません。

まず、III な問題でいうと、価値中立的であろうとする人が出てきます。政治家が問題発言をした時などに新聞記事には、「批判が起きそうだ」と書いてある。なぜ新聞社が批判して、問題を追及しないのか。また、野党はこういつているとしか書かない。政府を批判することこそマスコミの使命だと私は思うのですが、価値中立的であれば発言に責任を取らなくてもいいと考えて、このような書き方をするので。しかし、ジャーナリストこそ価値判断をして、おかしいといわなければいけない。

反対に、価値を押しつけようとする人がいます。国家が人の心に侵入しようとしてソクラテスは誰よりも愛国者でした。でも彼は、国家と政権をはっきり区別しました。本当に国を愛していたら、時の政府がやっていることがおかしいければ、批判するべきです。

(中略)

哲学は、既成の価値観を徹底的に疑います。本当にそれが正しいかどうかを立ち止ま

て考えられるようになるために、必要な学問です。
(岸見一郎「今ここを生きる勇氣 老・病・死と向き合うための哲学講義」による)

問一 空欄 X、Y に入る言葉として最も適当なものを、次の選択肢からそれぞれ選び記号で答えなさい。同じ記号は二度使えません。

ア なぜなら イ だから ウ そして エ では オ それとも

問二 空欄 I、II、III に入る言葉として最も適当なものを、次の選択肢からそれぞれ選び記号で答えなさい。同じ記号は二度使えません。

ア 現実的 イ 客観的 ウ 主観的 エ 抽象的 オ 具体的

問三 「抽象的な学問」とあるが、ここでの「抽象的」とはどのようなことか、最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

ア さまざまな要素の複雑な組み合わせを把握したうえで、より多くの人が受け入れやすいように普遍化させて考えること。

イ あらゆる条件や状況の全体をとらえようとするのではなく、ある側面や性質だけを抜き出して一般化させて考えること。

ウ 起こっていることの細かい部分に注目するのではなく、さまざまな条件を含む全体像をごく大ざっぱに考えること。

エ 現実のあらゆる条件を加味したうえで、今起こっていることがどういふことなのかを地に足をつけて考えること。

問四 「子ども」とあるが、筆者は「子ども」をどのようなものの例として挙げているか、最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

ア 具体的に見ると一人ずつがそれぞれ違った個性をもつので、経験則を一般化していかなければならないもの。

イ 一人一人が似通っていて大きな変化も起こらないので、一般的な原則によってとらえなければならぬもの。

ウ 多様なうえに常に成長していき、大人の言うことを聞かないので、どう対応すべきか全く判断できないもの。

エ 経験則により個別に具体的に考えなければならぬ一方で、一般的な面も把握していなければならないもの。

問五 「そういう感覚は本当ではない」とは、ここでは具体的にどのようなことか。「主観的」「客観的」という言葉を使って五十五字以内で書きなさい。

問六 「価値などがこの世界から排除されてしまうとどんな問題が起こるか」とあるが、どのような問題が起こるのか、最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

ア 何に重きを置くのかに言及しない報道がなされたり、人の心に一つの価値を強制的に植えつけようとする力が働いたりする。

イ 偏った価値観に基づいた批判的な報道をマスコミがしたり、国家と政権をはっきり区別しようとする動きが生まれたりする。

ウ 価値中立的であろうとする人が現れて政治が混乱したり、一つの価値を押しつける人が現れて人の心に侵入しようとしたりする。

エ 問題を傍観して批判的に論じないマスコミが現れたり、政府のやっていることがおかしいと批判する人間が登場したりする。

問七 筆者は、哲学とはどのようなものだと考えているか、最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

ア 既成の価値観にしばられず、世界の究極の基礎としての「もの」や約束事を考え出す、人間が生きるうえで必須のものである。

イ 物事について、本当にそれが正しいかどうかを立ち止まって考え、抽象的な概念を導き出す、人間にとって必要なものである。

ウ すでにある価値観を疑い、あらゆる条件や状況を加味して地に足をつけて物事を考える、人間になくはならないものである。

エ 常識にとらわれず、主観的な感覚を重視して世界観を作り上げることによって社会を変革していこうとする、人間ならではのものである。

第三問 次の傍線部のカタカナを漢字に直し、漢字はその読みをひらが

なで答えなさい。

- 1 古代の建造物のアトを訪れる。
- 2 いろいろな植物をサイバイする。
- 3 失敗のキョウフを乗り越える。
- 4 岩かげに魚がヒソむ。
- 5 人にメイワクをかけないよう気をつける。
- 6 擁護すべき権利がある。
- 7 公園は憩いの場である。
- 8 選手を激励する。
- 9 侮辱の言葉が発せられる。
- 10 鑑賞に堪える作品だといえる。

第四問 次の各問いに答えなさい。

問一 次の(1)、(2)の傍線部の用言の品詞と活用形の組み合わせとして正しいものを、後のア～エからそれぞれ一つずつ選び記号で答えなさい。

- (1) 壁をきれいに塗り終える。
- (2) 荷物はそれほど重くなかった。

	(品詞)	(活用形)
ア	形容動詞	未然形
イ	形容詞	未然形
ウ	形容動詞	連用形
エ	形容詞	連用形

問二 次の(1)、(2)の傍線部と文法的に同じものを、後のア～エからそれぞれ一つずつ選び記号で答えなさい。

- (1) かわいい人形を紙で作る。
ア ここは森の中である。
イ からすが飛んでいく。
ウ 問題の解決は困難である。
エ 僕は今、テスト勉強で忙しい。
- (2) 姉は参加しないとやっている。
ア テーブルにしよう油がない。
イ 雨は降らないだろう。
ウ 弟は今日、あまり元気でない。
エ 案外あつけない結末だった。

問三

次のア～エのうち、敬語の使い方が正しいものを一つ選び記号で答えなさい。

ア お客様、かばんは私がお持ちになります。

イ 先生が参る時間を確かめておく。

ウ 先生、こちらでお待ちください。

エ お客様に私の絵を拝見していただく。

〈問題は次ページへつづく〉

第五問 次の〈文章Ⅰ〉の漢文および「書き下し文」と、それに対する会話である〈文章Ⅱ〉を読んで、後の問いに答えなさい。

〈文章Ⅰ〉

王 戎 七 歳、嘗 与 二 諸 小 兒 一 遊、
 看 二 道 辺、李 樹、多 子 折 枝。諸 兒
 競 走、取 之、唯 戎 不 動。人 問 之。
 答 曰、樹 在 道 辺 而 多 子。此 必
 苦 李。取 之 信 然。

〔書き下し文〕

*1 王戎七歳、嘗て諸小兒と遊び、道辺の李樹、子多く枝
 折れるを見る。諸兒競ひ走りて之を取るも、唯だ戎のみ
 動かず。人之を問ふ。答へて曰く、樹道辺に在りて子多
 し。此れ必ず苦李ならんと。之を取れば信に然り。

〔世説新語〕による

【注】

*1 王戎…中国、西晋の政治家。

*2 李樹…すももの木。

*3 苦李…苦いすもも。

〈文章Ⅱ〉

陽太… X とき、道端のすももの木に、枝もたわわに実がなっていたんだね。
 美月…そのときの様子を見ていた人が、王戎に問いかけているけれど、問い
 かけた内容が書かれていないね。
 陽太…「 Y 」を問いかけたんだろうね。
 美月…王戎の答えがおもしろいね。

問一 空欄 X に入る言葉として最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答
 えなさい。

- ア 王戎が七歳の子どもの遊びを見ていた
- イ 王戎が七歳の子どもの遊びを見ていた
- ウ 七歳の王戎が子どもたちと遊ぼうとした
- エ 七歳の王戎が子どもたちと遊んでいた

問二 空欄 Y に入る言葉として最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答
 えなさい。

- ア 子どもたちが競って実をとる中に、なぜ王戎が遅れて加わったのか
- イ 子どもたちが競って実をとっているのに、なぜ王戎だけがそうしないのか
- ウ 子どもたちが競ってとった実を、なぜ動かないでいる王戎がもらえるのか
- エ 王戎は子どもたちに競って実をとらせて、なぜ自分はやらないのか

問三 「樹 在 道 辺 而 多 子」が「樹道辺に在りて子多し」という読みになるよ
 うに、返り点をつけなさい。

問四 「信に然り」とは、「本当にその通りだった」という意味である。何がその通り
 だったのか、王戎の言葉を「書き下し文」から十字以内で抜き出して書きなさい。

〈問題はここまで〉

B日程

解答用紙〔国語〕

*の欄には記入しないこと。
句読点、記号は全て一字に数えること。

受験番号
得点
*

第一問

問一 エ

問二 ウ

問三 ウ

問四 エ

店主の紺野さんと顧客の「私」という形式的
店主の紺野さんと顧客の「私」という形式的
な関係から、「私」が本腰を入れた話し友達
な関係から、
「私」が本腰を入れた話し友達
に昇格すること。
に昇格すること。

問六 ウ

問七 イ

*

第二問

問一 X イ

問一 Y エ

問二 I オ

問二 II ウ

問二 III ア

問三 イ

問四 エ

井戸水を冬温かく夏冷たく感じるの Haupt 観的
井戸水を冬温かく夏冷たく感じるの Haupt 観的
な感覚であり、年間を通して十八度といは主観的
な感覚であり、年間を通して十八度といは主観的
的なき事実に異なるといこと。
的なき事実に異なるといこと。

問六 ア

問七 ウ

*

第三問

※楷書で大きく丁寧に書くこと。

1 跡	2 栽培	3 恐怖	4 潜む
アト	サイバイ	キョウフ	ヒソ
5 迷惑	6 ようご	7 いこい	8 げきれい
メイワク	擁護	憩	激励
9 ぶじよく	10 たえる		
侮辱	堪		

*

第四問

問一 (1) ウ

問一 (2) エ

問二 (1) エ

問二 (2) イ

問三 ウ

*

第五問

問一 エ

問二 イ

樹在道辺而多子

樹 在_{リテ} 道 辺_ニ 而 多_シ 子

此れ必ず苦李ならん